



女性腫瘍センター・婦人科の新しい体制をご紹介します！



スタッフ紹介

(右) 上田 和 (うへだ・かず)
婦人科部長、病院教授
東京慈恵会医科大学卒、医学博士
婦人科 (腫瘍全般、腹腔鏡手術)
女性医学 (更年期、思春期、ウロギネコロジー)

(左) 永吉 陽子 (ながよし・ようこ)
病院講師
東京慈恵会医科大学卒
婦人科 (腫瘍全般、腹腔鏡下手術)、
女性医学 (更年期、思春期、女性アスリート)

◆6月1日から女性腫瘍センター・婦人科の診療体制が変わりました。

前部長の進先生からバトンを受け継ぎ、今回常勤として上田和と永吉陽子が赴任致しましたので、この場をお借りして着任のご挨拶をさせて頂きたいと思っております。

私たちは東京慈恵会医科大学産婦人科学講座のスタッフとして主に婦人科腫瘍全般、腹腔鏡下手術、更年期障害などの女性医学の診療に従事してきました。特に腹腔鏡下手術においては低侵襲であるだけでなく、より少ない傷・小さい傷で手術ができるよう様々な取り組みをしてきました。これまでの経験を活かし患者様にとってより満足度が高く安心して受けていただける医療を提供したいと考えています。

婦人科領域に関しては良性悪性問わず幅広く診療を行いたいと思っております。お問い合わせやご相談がありましたら、ご連絡頂ければと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

◆より低侵襲化を目指した手術への取り組み

当院では良性疾患に対して、基本的には腹腔鏡手術を行う方針です。その上で、さらに整容性と操作性を重視し定型化した低位単孔式腹腔鏡手術について紹介いたします。

●低位単孔式腹腔鏡手術 (L-SILS) ●

臍部に切開創をおく一般的な単孔式手術と異なり、恥骨上縁に2-3cmの小切開を施す方法で、術創が恥毛に隠れるため、非常に美容的な方法です。また切開創から直接的に手技を施すことも可能であり、従来の多孔式や臍部単孔式では困難な巨大卵巣腫瘍も容易に摘出することができます。

低位単孔式腹腔鏡手術 (L-SILS)

